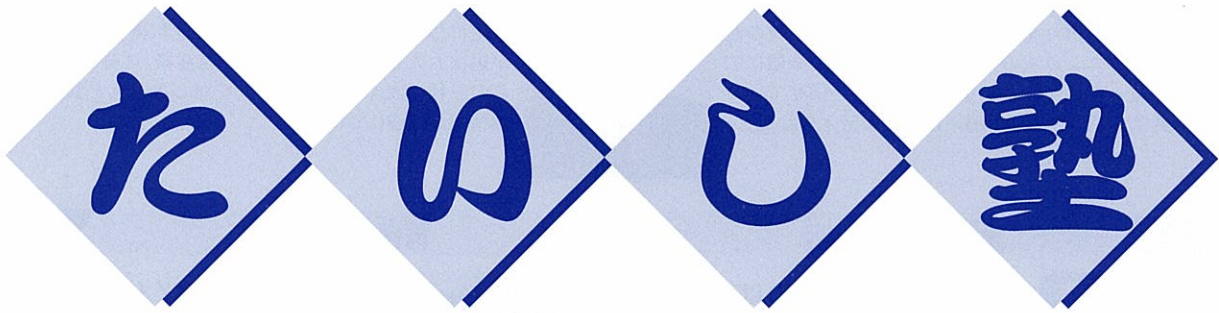


# 特別公開講座

—四天王寺大学社会人教室—

未来に尽くす—我々が歩むべき道—



## 仏教が歩んできた道

第2期・2009年9～12月 (いずれも木曜18:30～20:00)



自然の光に満ちあふれ、落ち着いた雰囲気の中に建つ学舎

### 四天王寺大学

〒583-8501

大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

<http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/> (「IBU」で検索して下さい)

四天王寺大学は593年(推古元年)、聖徳太子により仏の教えを学ぶ場、そして人間教育の場として創建された四天王寺敬田院の使命を受け継ぐ大学です。

建学の祖である聖徳太子の精神に則った仏教のミッションスクールとして、我国はもとより、国際社会に貢献しうる有為の人物を育成する教育を行っています。

本学は通称IBUと呼ばれ、春は桜、秋は紅葉に彩られた四季を体感できる環境と、学修に邁進できる静寂と文化の香りあふれるキャンパスが自慢です。

また、1997年設立の生涯学習機関エクステンションセンターでは、公開講座やオープンカレッジ、IBU桜WEEKSをはじめとする地域社会との交流事業などに積極的に取り組んでいます。

平成21年4月には近鉄藤井寺球場跡地に開校された四天王寺学園小学校にあわせて、「四天王寺大学藤井寺駅前キャンパス」が誕生しました。

藤井寺駅から至近距離に位置するこの駅前キャンパスは、学生はもとより、地域の方々にとっても身近で利用しやすい本学の新しい拠点です。その利便性を生かした多彩な教育活動には期待が寄せられています。

これからも高等教育機関として更なる教育環境の充実を図ってまいります。

インドで誕生した仏教は、その後、長い時間をかけてアジアの各地に伝わっていきます。その過程で仏教はさまざまな文化を生み出してきました。この講座では、主として日本における仏教の展開とそこで花開いた文化について考察するとともに、日本以外の地域の仏教文化についても紹介します。悠久に生きる仏教の教えの一端をぜひ感じとっていただければと思います。

要項、カリキュラムは次の通り。定員50人(申し込み先着順)。

◆場所：毎日文化センター 大阪市北区梅田3-4-5

◆曜日・時間：毎週木曜日 18:30～20:00

◆受講料：通期 20,000円

希望講座のみ受講の場合 1回2,000円

◆受講申し込み：毎日文化センター

☎06-6346-8700 Fax 06-6346-8703

◆問い合わせ：毎日文化センター

四天王寺大学エクステンションセンター

☎072-956-3345 Fax 072-956-9960

◆修了証発行：全講座の3分の2以上受講の方に大学が修了証を発行。(無料)

\*入会金不要。どなたでもいつからでも受講可。年齢・資格不問。

## 1

## 仏教誕生とその伝播

シャカ族カピラ城の皇子ゴータマ=シッダルタは、出家・苦行の後に、三法印の悟りを開いてブッダとなった。彼の教えはアショカ王やカニシカ王の帰依を得て、インド全域に広まり、彼の姿を象った仏像、舍利を信仰する塔と併せて、スリランカ、中央アジア、さらに中国・日本にも伝えられた。



## 2

## 仏教の教えとは何か

「仏教とは大慈悲心これなり」。大乘仏教の精髓は、慈悲と共生に尽きる。たまたま我が国で注釈書を作られた聖徳太子が選ばれた仏典は『法華経』『勝鬘経』『維摩経』であった。この三経の説くところは、人を慈しみ、人と共に生きる、仏教精神が横溢している。

## 10月1日

すはら しょうじ  
須原 祥二 (准教授)

## 3 仏教の受容と信仰のはじまり

6～7世紀の人々は、在来の「カミ」と違って「ホトケ」をどのように受け止めたのでしょうか？また7世紀の仏教は、8世紀の「南都六宗」とどのようにつながるのでしょうか？仏教の受容と初期の信仰についてとりあげます。

みなみたに みほ  
南谷 美保 (教授)

## 10月8日



## 4 花開く仏教文化

飛鳥・白鳳・天平のそれぞれの時代の代表的な仏像を取り上げながら、その様式の変遷を見ていく。単に様式の変化を知るだけでなく、その変化の背景にあるもの、すなわち、仏教受容後の日本社会の変化および東アジア世界における日本の立場について考えるものとした。

## 10月15日

ももこ こうじゅん  
桃尾 幸順 (専任講師)

## 5 日本仏教の礎①：最澄

比叡山延暦寺を開かれた伝教大師最澄は中国の天台宗を日本に伝え広めました。天台宗の教学はすべての仏教を総合的にとらえて評価する特徴を持っており、それは比叡山が鎌倉時代の新仏教の母体になることにもつながっていきます。この講義では最澄の業績や思想について考えていきたいと思います。

ふじたに あつお  
藤谷 厚生 (准教授)

## 10月22日



## 6 日本仏教の礎②：空海

平安初期、我が国に新たな仏教（密教）をもたらした空海。この密教の導入によって、平安期の仏教・文化が大きな展開を見せることとなる。本講では、空海の人物像をふまえながら、中世・日本仏教の礎となった空海の密教思想の特徴について概観してみたい。

## 11月5日

なるこ けいじゅん  
兼子 恵順 (教授)

## 7 浄土教の教え

浄土教は、阿弥陀仏の浄土に往生して仏果を得ることを期する教えとされる。では、どうすれば浄土に往生することができるのか。浄土教が我々に求めているものは何か。かかる課題を、法然の『一枚起請文』『選択本願念仏集』を通して考える。

にしおか せしゆろ  
西岡 祖秀 (教授)

## 11月12日



## 8 禅と日本文化

禅は鎌倉・室町時代に宗教思想としての存在感を示したが、そのほか武士道のバックボーンとして、また茶道、華道、能、書画、庭園などの芸術活動の軸となって、日本文化一般に非常に大きな影響を与えた。その背景となった禅独自の世界観について考える。

## 11月19日

みなみたに えいけい  
南谷 恵敬 (教授)

## 9 仏教美術の世界

平安時代に盛んとなった、密教、法華経信仰、浄土教信仰など、さらに鎌倉時代に成立した新仏教など、いずれの信仰においても特色ある仏教絵画が生み出された。本講義では、それぞれの信仰に即して芸術的価値の高い作品を鑑賞する。

つまがり しんいち  
津曲 真一 (講師)

## 11月26日



## 10 チベット仏教の世界

仏教は7世紀前半、ヒマラヤ山脈を越えてチベットにも伝わり、現在もチベット文化域に住む多くの人々の信仰生活を支えています。今回は、チベット仏教の歴史を概観した上で、チベット仏教徒たちの信仰生活や、曼荼羅・仏画といった仏教美術など、チベット仏教の世界の一端を紹介したいと思います。

## 12月3日

ゆひ くにこ  
由比 邦子 (講師)

## 11 古代ジャワにおける仏教受容

世界最大のイスラム国インドネシアにも仏教が栄えた時代があった。8世紀後半に建立されたボロブドゥール寺院はその象徴的存在である。同寺院の壁面浮彫は仏教経典を視覚化すると同時に、古代ジャワの生活を生き生きと映し出す。古代の慣習が形を変えつつ現代にまで受け継がれている様相は、浮彫の音楽演奏図にも窺える。

なかがき まさよし  
中垣 昌美 (元教授)

## 12月10日



## 12 今、ここに、生きる仏教—仏教社会福祉の視点—

基本的人権は、個人に付与されている生存権を言う。生きる権利を守ることは、「生きるとは何か」を正しく考える権利と正しく生きる義務を遂行していることである。そして、生き甲斐は、いのちの尊さに目覚めた証しである。生きる権利を認知することは、人間の存在を認めあい、いのちの輝きを確認していくことである。そこに仏教がある。